

# 写真によせて

## ツンドラスズメノヒエ *Luzula tundricola*

札幌市 梅沢 俊

前号に引き続き山草会の会誌にふさわしくないようなイグサ科植物の登場だけれど、学術的な『北方山草』ならまあいいかな(笑)。でもこの植物には私にとってちょっとしたストーリーがあるのだ。つまらない物語だが、以下にその顛末を。

確か昨年(2023年)春のことだと思うが、当会の会員だった中川博之さんから植物研究雑誌 第97巻第6号の別刷りが送られてきた。それは北海道で見つかった日本新産植物の報告で、題して**大雪山系富良野岳で確認されたツンドラスズメノヒエ(イグサ科)**とある。著者は中川さんのほか首藤光太郎、佐藤謙、黒沢高秀の各氏である。

内容を読み進むと、発見地はどうも私が以前(1986年)に行ったことのある場所のようで、その新産の植物も見覚えのあるものようだった。

当時私は未見の植物、同じイグサ科であるが別属のエゾイトイを探し歩いて「ここにありそう」と目を付けたのが稜線から急なルンゼを降りた現場である。ここではエゾイトイは見つからなかったが、興味を引く植物が... チシマイワブキ、エゾルリソウ、ミヤマアズマギクなどがあり、正体不明のミミナグサも見られた。もちろん例のイグサ科植物もあり、何かカットも撮

影している。植物写真家だから(苦笑)もちろん果実のアップもだ。葉の先端を見ると鋭く尖っている(同属の多くは円く硬くなっている)大雪山の風衝礫地で見られるクモマスズメノヒエだろうとその時の認識だった。ただ場所柄だろうか随分栄養状態がいい個体ばかりだなとも思った。帰札して「面白い所があったよ」との意味合いで佐藤謙さんに報告したような...

中川さんらの報告文を読んだ後、私のクモマスズメノヒエのファイルから例の写真を取り出し、中川さんに同定をお願いしたところ、「ツンドラスズメノヒエに間違いないでしょう」との返事をいただいた。

ちなみにこの植物ツンドラスズメノヒエに関しては、当会会長高橋英樹さんのご労作『千島列島の植物』(2015 北海道大学出版会) 121 ページに解説が載っている。

以上「俺は何て研究者に向いていないのだろう」と再認識しただけの情けない話でした。おそまつ。

## 北海道の湿原・湿地

江別市 大沼 弘樹

『珊瑚草』の名でも知られるアッケシソウの自生地といえば、道内では能取湖の卯原内地区にある大群落が有名ですが、道東の潟湖にはまとまった規模の群落が点在しています。サロマ湖沿岸のワッカ原生花園もそのひとつで、卯原内に比べれば人影は

疎らですが、干潟部分では沢山のアクセシソウを見ることができました。

釧路市 加藤 ゆき恵

道東以外の湿原は10年以上前に行った場所ばかりだったので、当時を思い出しながらハードディスクを探しました。猿払村の猿払川湿原は何年も通ったのに、自分で撮った中には「映える」写真がありませんでした。湿原内を通る道道732号が冠水通行止めになり、何度も足止めを食らったことを思い出します。

釧路町の細岡展望台から見た、蛇行する釧路川から水が湿原にあふれている風景は、湿原の成り立ちや湿原が持つ天然の遊水池・ダム機能が分かって、釧路湿原らしい光景だなと思います。

札幌市 齋藤 央

道東の無名湿原にて

開発と劣化の著しい道央平野部の残存湿原の厳しい現実からしばし逃れるつもりで足を運んだ道東の湿原に、気が付けばここ数年通い詰めています。釧路湿原や霧多布湿原、国の天然記念物指定の答申が出た別海町の西別ヤチカンバ湿原のような著名な湿原を参考程度にちらりと見た後は、空中写真を頼りに無名湿原を捜しては渡り歩いています。

道東の湿原で特筆すべきは、やはりチャミズゴケのブルトでしょう。ガンコウラン、イソツツジ、ヒメツルコケモモなどを頂部にはべらせつつ、大きいものだと直径2~3mに達します。別海町の市街地のすぐ西側、パイロット国道の南側にある湿原(西

別南湿原(仮称))ではブルトの間のシュレンケでヤチスゲなどが優勢でヒメタヌキモを伴うのに対し、浜中町の姉別湿原(仮称)ではムジナスゲやツルスゲが殆どでコタヌキモもヒメタヌキモも見つかりませんでした。

チャミズゴケブルト連続体よりも川筋に近い部分には、シュレンケを巨大化したようなヤチスゲやホロムイソウなどの群落が展開しており、コタヌキモやヒメタヌキモが群生しております。別海町の西別川流域の残存湿原では、大半の湿原でそういった場所にムセンスゲが見られました。

浜中町北東部、姉別川南岸の姉別湿原(仮称)は大半がフェン(低層湿原)で、ヨシやツルスゲに混じってクシロハナシノブが随所に生え、ハナタネツケバナが散見されました。

函館市 酒井 信

ハゴロモミズバショウ

本種は会員の佐藤広行氏により発表されたミズバショウの新品種。2016年春以来、毎年観察、本年2023年も健在でした。近年は年に1度しか観察していません。良い花と出会えるのは難しく、年1度ではなおさらです。健在の報告と証拠写真です。

雨竜町 佐々木 純一

北海道は湿原王国です。山地から低地の湿原、湖沼や河口の湿原、海浜の塩湿地と実に多彩です。その数は名称も無い小さな湿原などを含めると250カ所ほどといわれます。その全てを観察したいと欲張りますがムリです。道が無い山地湿原がたくさん

あります。

湿原の植物や景観は、春・夏・秋と季節の移ろいごとに表情を変えて迎えてくれます。木道が整備された湿原は快適ですが、多くの湿原は長靴が必須で、夏の炎天下に日陰が無く、やぶ蚊に襲われ足元はぬかるみで不安定、湿原観察は3K(キツイ・キタナイ・キケン)です。ですが湿原でしか出会えない植物たちや景色に魅せられて湿原通いが続きます。一期一会の出会いがあります。

道南横津岳の烏帽子沼湿原などの湿原群、ニセコ手鏡沼、愛山溪の雲井が原湿原と蛇の月見湿原は名称も気にいっていますが静かで美しい山地湿原です。低地湿原では猿払村の猿骨湿原や根室落石湿原(峠じゃない)がお薦めの穴場で(未掲載)、花と景色と青空を満喫できます。

野や山の雪が解けてミズバショウの季節が、湿原のめざめです。

札幌市 佐生 淳一

弁天沼周辺湿地

最初は業務がらみであったが生育する植物の多様性に魅せられ、既に15年ほど通っている。弁天沼湖岸からは厚真火力発電所が伺える。低層湿原が大半を占めるが、中層、高層湿原も点在する。また、安平川河口付近では塩湿地もみられる。弁天沼や周辺湿地は降雨による水位変動が大きく、これに伴って植生の繁茂状況が毎年変化する。水位が低下した泥土地ではミズトンボやホソバノシバナ、ムラサキミミカキグサなどがみられるほか、水位が維持された浅水域ではコタヌキモやオオタヌキモなどと

いった「タヌキモ類」が豊富にみられる。

工業開発によって失われた勇払原野の残存地域である。未だ安平川周囲堤工事などの開発行為が進む中、今後の湿地存続を願わずにはられない。

ミズトンボ

種々のスゲ属が繁茂する広大な湿地にて確認した。毎年花の時期を楽しみにしている。年によって開花株の多少があるようで、写真の年は比較的多くの株で開花を確認できた。

釧路市 佐藤 照雄

ムラサキミミカキグサ

この花には野生ランを探して水のある湿地に入ったときの偶然の出会いでした。地下茎にはまばらに捕虫器官をつける食虫植物だと言い、高さ10cmほどの軟弱な植物で薄紫色の可愛い花が印象的です。和名は花姿からではなく果実が耳かき状の形になることから付けられたらしい。この花には後にも先にも一度しか出会ったことのない極めて希少な植物なのですが、準絶滅危惧種とはちょっと不思議です。

トヨコロスミレ

このスミレは以前から十勝の豊頃町や大樹町などで見てきましたが、釧路での初見は遅く2016年のことでした。それまでは釧路の花友の間でも知られることはなかったのですが、どうも近くにはシロスミレが決まって生育していることから、このスミレと見間違っていた可能性が高く、よく調べてみると白糠町市街地周辺の沿岸に近い

草地にも広く生育していることが分かった  
 のでした。湿った明るい草地を好むようで、  
 所によっては写真のように群生しているの  
 も見られ、個体数はかなり多い印象です。

札幌市 首藤 光太郎  
 エゾベニヒツジグサ

*Nymphaea tetragona* Georgi

日本のエゾベニヒツジグサにはこれまで  
*Nymphaea tetragona* Georgi var. *erythrostigmatica*  
 Koji Ito が使われてきたが、ここでは柱頭盤  
 が赤い植物にこれまで狭義ヒツジグサに  
 使われてきた *N. tetragona* を、黄色い植物  
 に *N. pygmaea* (Salisb.) W.T.Aiton を用いるとい  
 う Naito & Shiga (in press) の見解に従う。写  
 真は、植生調査のために訪れた浮島湿原の  
 池塘で撮影した一枚。伊藤浩司博士は *N.*  
*tetragona* var. *erythrostigmatica* の発表に際  
 し、浮島湿原の池塘では黄色い柱頭盤と赤  
 い柱頭盤の植物が混在することを記載した  
 (Ito 1968)。しかし、今回の調査でほぼす  
 べての池塘を観察したものの、柱頭盤が黄  
 色い植物を発見することはできなかった。

引用文献

- Ito, K. 1968. Observations on Northern Japanese  
 Plants (8). J. Geobot. 16(4): 100–106.
- Naito, H. and Shiga, T. in press. Distribution  
 of *Nymphaea pygmaea* and *N. tetragona*  
 (*Nymphaeaceae*) in Hokkaido, Sakhalin  
 Island, and the Kuril Islands based on  
 herbarium specimen records.
- J. Asia-Pacific Biodiv. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2287884X23001267>

札幌市 武田 千恵子

越後沼のカラフトカサスゲ

越後沼は江別市江別太にあり江別東イン  
 ターの極近くにある。かつて 55,000ha あ  
 ったとされる石狩湿原に僅か残された小さ  
 な沼で周囲は湿地である。ここはホロムイ  
 と名がつく固有種も多い幌向原野の一部で  
 もある。カラフトカサスゲは以前は日本に  
 は雨竜沼湿原とこの越後沼にしかないとさ  
 れていたが、現在では後志地方の 3 カ所と  
 合計 5 カ所ある (すげの会 2018 日本産ス  
 ゲ属直物分布図集、すげの会 2020 莎草研  
 究 22: 54 岩手県の点は再同定により削除)。  
 オオカサスゲに似ているがよりこぶりなス  
 ゲである。ここはサワギキョウも多い。

美唄市 新田 紀敏

わずか 10 分弱の通勤で、ちょっと寄り  
 道をすると湿原があり、開花を確認するた  
 め朝夕通ったこともありました。仕事でも  
 ここ何年かは湿地・湿原へ行く機会がかな  
 りあり、石狩平野の湿ったところは身近な  
 存在です。1 番の思い出は暑いこと。とに  
 かく日陰がないので、このところの暑い夏  
 には本当に参ってしまいます。観察会で山  
 地の湿原へ行くと気温も低くなんと清々し  
 いことか。そんな低地の湿原は、埋めれば  
 更地になってしまうので今も危機が迫って  
 いるところがあります。なんとか価値を認  
 められ、残されることを祈ります。

北斗市 長谷 昭

静狩湿原の池塘景観とカキツバタ

静狩湿原は、かつては 200 あまりの大小  
 の池塘があったとされています。従って、

農地開拓によって大幅に縮小し乾燥化が進んでいる湿原の中で、かつての面影を最も色濃く残しているのは池塘が点在する湿原南側と言えましょう。写真は、湿原最大の池塘を含めた景観と、池塘の浅瀬に群生するカキツバタ（アヤメ科）を写したものです。

カキツバタはトキソウ（ラン科）と並んで6月から7月にかけて最も目立つ植物であり、写真のように池塘の浅瀬や水辺に群生するだけではなく、湿原の水たまりの随所に生育しており、静狩湿原を代表する植物の1つとなっています。

倶知安町 藤田 豊

ショウジョウバカマ

天候に恵まれた神仙沼で池塘にアカエゾマツと白い雲を入れて撮りました。花の色もさわやか清楚なショウジョウバカマを撮ってみました。

ネムロコウホネ

葉の大きさに比べて小さい花ですが、水面から黄色い顔を出しているのが可愛い。

ヒオウギアヤメ

ヒオウギアヤメの外花被基礎部の虎斑模様が美しいのでアップで撮りました。

ヒメカイウ

近年開発が激しいニセコ山系。アンヌプリ山麓の湿原ではヒメカイウがかなりの頻度で群生している。この状況を永く留めたい。そんな気持ちで撮りました。

札幌市 三浦 久和

天空の花園

花を観察するには季節外れの9月、初めて辿る険しい登山道を登り詰めたその先に、突然広がる広大な草原！！花は僅かながら、広々とした黄金色の草原に点在する池塘の美しさに、すっかり虜となりました。その後、湿原固有の花を見たくなり7月と8月に登山して、ウリュウコウホネやエゾベニヒツジグサなど、雨竜沼湿原固有の花を観察することができました。6月に湿原の様子を観察することが目下の目標です。

## *Hemerocallis middendorffii* var. *esculenta* ゼンテイカ〈エゾカンゾウ〉の大群落（裏表紙）

釧路市 加藤 ゆき恵

資料借用のため浜中町に行った際、約束の時間よりも早く着いたので展示用写真撮影も兼ねて、ちょうど見ごろを迎えていた「霧多布湿原エゾカンゾウ群落」に立ち寄りました。遠くでは霧が立ち上り、手前には無数のゼンテイカの花。エゾシカによる食害で一時期は花の数を減らしていましたが、近年は群生地を電気牧柵で囲い、景観が維持されています。2013年以降、霧多布湿原に足繁く通っていましたが、ゼンテイカの花盛りに当たることがほとんどなかったため、ありきたりな表現ですが「黄色い絨毯を敷いたみたい！」と感動しました。